



12月

気がつけばもう12月。テレビなど色々な場面で「今年も残り一ヶ月となりました。」と伝える言葉を聞くようになりました。しかし、今年は「本当に一年が過ぎたのだろうか？」とを感じるのも確かです。四季それぞれを通じて経験してきたことがなかなかできず、木々の変化や気温の変化は感じるものの、春・夏・秋、そして冬と、日々の活動を通して季節を感じる事が少ないまま12月を迎えたように感じます。

そんな中、私が王司小に赴任して以来、密かに続けてきたことがあります。それが中庭に落ちる『松ぼっくり集め』です。なんだそんなことかとも思われるかもしれませんが、赴任したての私が、どんなつくりの校舎か、どんな校庭かを一人見て回った時、中庭で見付けたのが一つの大きな松ぼっくりでした。手に採りながらふと上を見ると、まだまだ無数の大きな物が枝に残っていました。それ以来、落ちてのを見付けては拾い、学校玄関棚に飾り、その数およそ40個。11月に入ると、1年生も図工の材料が必要と『松ぼっくり集め』は一年生に譲りましたが、集めた松ぼっくりを何かに変身させようと、放課後の校長室で一人製作活動。12月を代表する物に変身しました。

雨天の日は、校長室を訪ねてくる子ども達が多く、私の作品を見ては季節を感じながら褒めてくれます。中には追加の飾りとして、大きなどんぐりを私にプレゼントしてくれた子がいて、さっそくホットボンドでくっつけました。



予想以上の言葉がけに 心がぽっ



先週木曜日、全校集会活動として『ウォークラリー集会』が開かれました。なかなか通常の集会活動が難しい中、今回は担任の先生達がアイデアを出して簡単なゲームや問題を用意し、各教室をチェックポイントとして、縦割り班ごとにまわっていく集会でした。楽しみながらも各教室では密にならないようにと、一度に入室できる班の数に制限を設けたり、入口と出口を一方通行にしたりと、感染症対策を講じての活動でした。

そんな集会活動ですが、このような活動をしたときに起こってしまうのが『迷子さん』です。各班それぞれ6年生の班長が中心に班員全員を引き連れ、各チェックポイントをまわっていくのですが、全校児童の一斉移動です。ゲームに夢中になっていたり、ちょっとよそ見をしたりしていると、自分の班からはぐれてしまう児童が出てしまいます。はぐれた時は自分で職員室前の決められた場所に行き「〇班の□□です。班とはぐれてしまいました。」と伝えることも事前に確認してありました。

そして、本番スタート。活動が始まり約1時間が過ぎた頃、1年生の子が一人、職員室前にやってきました。「〇班の□□です。迷子になっちゃった。」と言ってきました。「〇班なら、さっき第一校舎にいたから一緒に行こう。」と行くと、その子は「この班ではない。」と答え、また職員室前に戻ってきました。再度、縦割り班名簿を確認したところ班番号を間違えていたことに気づき、さあ行こうとしたその時でした。廊下を早歩きで職員室前にやって来る6年生。そして迷子の1年生に「ごめんね。一人にして。」でした。私は、正直、不意打ちをされた気分でした。私の予想した言葉、それ以上の言葉を6年生の班長は1年生にかけたのでした。私の予想した言葉は「よかった」。でも、その班長の第一声は「ごめんね」でした。班長の子、1年生の子、どちらが悪い訳でもありません。班長としてかけた「ごめんね」には、学校のリーダーとして責任を自覚しているからこそ発することのできた言葉でした。運動会をはじめ、リーダーとしての活躍の場を数多く奪われた今年度ですが、確実にリーダーとして成長している6年生を頼もしく感じる一場面でした。

その後、「ごめんね。一人にして。」と迎えに来た6年生が1年生の肩に手を添え自分たちの活動場所へと戻って行きました。寒さが日増しに厳しくなる中で、心の中は温かい時間でした。